

「常陸風土記の丘」のさくらまつり



(表紙写真：石岡市観光課)

石岡市では、今から1万年以上も前の旧石器・縄文時代から弥生時代までの遺跡が数多く発見されるほか、東日本で2番目の大きさを誇る舟塚山古墳など数多くの古墳群が残っています。また、7世紀半ばに常陸国が誕生した際には、市内に国府が置かれ常陸国の中心地として長年繁栄してきました。

「常陸風土記の丘」は、奈良時代初期の養老年間(717～724)に、常陸国の国司 藤原宇合が編纂したといわれる『常陸国風土記』にちなみ、古代より培われた数多くの文化や史跡など歴史的な財産を未来に残すため、宮平遺跡に整備されました。現在では、来訪者が心触れ合う余暇を過ごせる場所として、年間で約15万人が訪れる人気のスポットとなっています。

園内には、縄文時代から江戸時代までの復元家屋が並ぶ「古代家屋復元広場」や官衙(役所)工房跡の復元家屋が建つ「鹿の子史跡公園」など歴史的な建造物を見学できる広場のほか、日本一の大きさを誇る「獅子頭展望台」やキャンプ場、散策路なども設置されています。

また、常陸風土記の丘は、桜の名所としても知られており、4月になると約50本のソメイヨシノや150本を越すシダレザクラ、約300本のボタンザクラが順々に咲き誇る華やかな姿を楽しむことができます。

ご家族・ご友人とともに、桜のトンネルを抜け、古代の日本へタイムスリップしてみたいかがでしょうか。



◆場 所：茨城県石岡市染谷1646

◆アクセス：

【車】常磐自動車道「石岡小美玉スマートIC」より約10分、または「千代田石岡IC」より約15分

【電車】JR常磐線「石岡駅」より関鉄グリーンバス「村上」下車にて徒歩15分

◆常陸風土記の丘「さくらまつり」

3月26日(火)～4月22日(月)

「さくらライトアップ」も実施

期間中は午後9時まで開園(有料エリアを除く)

筑波総研株式会社 研究員 冨山かなえ